

いじめについて

村上市立荒川中学校三年 遠山 葉々子

みなさんは、いじめをしたり、されたり、見てみぬふりをしたことはありませんか。これは、私が体験したことから思ったことを話したいと思います。私は、小学校の三、四年生の頃、いじめを受けていました。いじめを受けたことのない人は『そんな昔の話。』と笑う人もいるかもしれませんが。しかし、私の小学校の一番思い出にあるのは、修学旅行でも、学年で行ったキャンプでもなく、いじめられていた日々だけでした。いじめの内容を少し話すと、くつをかくされたり、ノートをやぶかれたり、「ウザイ」などの悪口を言われていたなどです。そして、四年生の頃には、別の人にいじめを受けました。私は、いじめられていることを母に相談しました。

「本当にムカつく。もうやだ。」

と私が言うと、

「それなら、その子に言えばいいんじゃないの。それか先生にいじめのこと言えばいいじゃない。」

と言われました。私は『そんなことしたらいじめがエスカレートするだけだ。私はただ話を聞いてほしかっただけなのに。お母さんは理解なんてしてくれない。』と思い、それきり誰かに相談したり、会話をしたりするのをひかえ、一切人を信じるのをやめました。

そして一人でいじめを耐えぬいて二年、五年生のときいじめのターゲットが変わりました。それは、四年生の頃私をいじめていた一人でした。それから、三年生のとき私をいじめていた主犯に近い人たちと一緒にいるようになっていきました。私は自分のことを今までいじめていたからとか、またいじめのターゲットになるのはいやだと思い、助けようとはせず、見てみぬふりをしていました。なんとも自己中心的な考えだと思いましたが、このときは、特別、悪いことをしているとは思いませんでした。

私はこの小学校でのことをふり返って思ったことは、最近自殺問題がテレビでさわがれていますが、今思うと、自殺したい気持ちが少しわかるような気がしました。小学生のとき、『楽になりたいな』とはふとした瞬間に思うことがあったからです。でも不思議なことにその当時は、自殺したいと思ったり、不登校になることはありませんでした。でも今でも人をあまり信用してはいません。信用している人も少ない方だと思います。

そんな中で、少し後悔していることもあります。それは、いじめを見てみぬふりをしてしまったことです。どうしてあのとき助けられなかったのか。声をかければよかったとふとした瞬間に思うことがあります。

その経験をもとに私はどうしていじめはおこるのかを考えました。自分にも欠点があるのになぜ人の悪口を言ったり、けなしたりして人を傷つけるのでしょうか。今でもその答えがわかりません。でも、少し思うことは、いじめをしている人、見てる人、されている人に共通しているのは、「不安」という言葉があてはまることだと思いました。いじめられるのが怖いから、ターゲットにされるのがいやだから、どんないじめが待っているのか。それぞれ内容はちがうけれどどれも似た「不安」があると思いました。みんながそうとは限りませんが、私を感じた一例を挙げてみました。

最後に、私は、いじめはいけないことだと思いました。あたりまえだと思う人が多いと思いますが、いじめに対して意識が薄いからくだらないいじめが起きていると思います。どんな事情があっても、その人を恨んでいたとしても人の心をおかしくさせてしまう『いじめ』は本当にいけないことだと思っています。